

You, Unlimited

龍谷大学大学院

心理学研究科

Graduate School of

Psychology

2027



RYUKOKU  
UNIVERSITY

# 心理学研究科

Graduate School of Psychology

**心理学の高度な専門性とコミュニケーション・スキルを修得し、  
心理学的支援を担うことができる高度専門職業人や研究者を養成します。**

心理学研究科は、文学研究科臨床心理学専攻を発展的に改組して設置しました。その前身となる文学研究科教育学専攻臨床心理学領域であった2008年から、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する「第1種指定校」に認定されています。さらに、2017年から始まった国家資格「公認心理師」受験資格に対応したカリキュラムを整備し、公認心理師も輩出してきました。

現代社会は、複雑で不確実、予測困難であり、人々は精神的・心理的な安定を一層求め、回復に対する専門的な支援への要請が高まっています。多様で複雑な心理的課題に適切に対応するには、臨床心理学の主要な学問領域である個人心理学に基礎を置く「生涯発達」の手法と共に、本学の特長として培ってきたシステムズアプローチによる「関係者支援」の手法のそれぞれが不可欠です。諸課題の解決に向けた多様な社会のニーズに貢献できる人材を育成するため、新たに心理学研究科を設置しました。

本学では、現場実践経験の豊富な教員による臨床的対応についての指導、学内実習施設での教員の陪審・陪席などによる実習等によって、臨床心理学の知識にとどまらず、臨床的に有益で高度なコミュニケーション・スキルや対人援助の実践的なスキルを身につけることを目標としています。



心理学研究科長

吉川 悟

Satoru Yoshikawa

## 設置の理念

心理学研究科は建学の精神に基づき、心理学の専門的知識を修得し、現代社会における地域や組織がかかえる人間関係に関する心理的課題を深く把握・理解し、解決するための高度な倫理性と実践能力を有し、近接領域の専門職と協働的支援を実現できる能力を有する人材を養成することを目的とする。

### POINT

## 公認心理師、臨床心理士の両資格取得と、 心理的支援を実践できる高度専門職業人を育成

心理専門の資格である、公認心理師・臨床心理士の両制度の受験資格を確実に得られるカリキュラムを編成するとともに、臨床実践を通じたキャリア教育による高度専門職業人としてふさわしい倫理性と実践能力を有する人材を養成。

## 臨床心理学に対する社会からの新たな要請に対応

これまでの個人療法による対応に留まらず、関係者支援や多職種連携を実践していくための高度なコミュニケーション・スキルや、クライアントにかかわる家族や関係者への間接的な心理的支援の手法の獲得など、社会からの新たな要請に積極的に対応。

### 教育理念・目的

## 修士課程

研究科名	専攻名	学位	定員	修業年限
心理学研究科	臨床心理学専攻	修士(臨床心理学)	入学定員:20名 収容定員:40名	2年

### 〔養成する人材像〕

心理的支援の現場において、多職種との協働的な支援が可能となる専門的知識や課題解決に向けたアプローチを構想する上で必要となる対人支援能力を修得することで、研究力・臨床実践力共に有する人材を養成することを目的とする。また、心理的支援の現場における課題を包括的に把握し、心理的困窮にある人に対する全人的な視点からの課題解決能力を有し、協働的な支援に必要な専門的実践力と構想力に優れた高度専門職業人及び研究者を養成する。

## 博士後期課程

研究科名	専攻名	学位	定員	修業年限
心理学研究科	臨床心理学専攻	博士(臨床心理学)	入学定員:6名 収容定員:18名	3年

### 〔養成する人材像〕

### 研究者養成コース

これまでの臨床心理学の専門性に限定されず、対人支援の現場の問題を見だし、そこに必要な知見を生み出す研究力を備え、それらを臨床実践に提案・還元するとともに、それらを社会に発信できる能力を持つ研究者を養成する。

### 高度専門職業人養成コース

現場で求められているより高度で包括的な臨床能力の獲得、及び後進の臨床実践力の向上のための指導(スーパーヴィジョン)方法を獲得することで、高度専門職業人に対する指導的立場の人材を養成する。

# 修士課程

キャリアビジョンに合わせた専門的かつ実践的な「2つの分野(生涯発達・関係支援)」を設定し、関連領域における知識体系や理論を教授することが可能となるような科目履修を促進する。また、臨床実践をとおしたキャリア教育を通じて高度専門職業人に相応しい高い倫理性と実践能力を有する人材を養成する。

## 履修モデル

◎:必修科目 ○:選択科目

科目区分	1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期
特論	◎臨床心理学文献研究			
	特論選択科目(公認心理師、臨床心理士受験資格課程科目を含む)			
	○ヒューマンライフケア・ケーススタディⅠ ○システムズアプローチ・ケーススタディⅠ ○臨床心理学特論 ○臨床心理面接特論	○臨床心理学研究法特論 ○学習心理学特論 上記を含む10科目	○ヒューマンライフケア・ケーススタディⅡ ○システムズアプローチ・ケーススタディⅡ	
演習	◎臨床心理学演習Ⅰ		◎臨床心理学演習Ⅱ	
	○臨床心理査定演習			
実習	○臨床心理基礎実習 ○心理実践実習Ⅰ		○臨床心理実習 ○心理実践実習Ⅱ ○臨床心理実習指導Ⅱ	
	○臨床心理実習指導Ⅰ			

■ 公認心理師受験資格課程では、5領域(医療保健、福祉、教育、司法犯罪、産業労働)の科目を中心とし、臨床心理士受験資格課程では、臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理学的地域援助、臨床心理研究の4領域を基軸とした教育課程を編成する。

## 取得可能な資格

### 公認心理師受験資格課程

公認心理師は、心理専門職に関する初の国家資格であり、保健医療、福祉、教育、司法、産業の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、①心理に関する支援を要する人の心理状態の観察、その結果の分析②心理に関する相談及び助言、指導③心理に関する支援を要する人の関係者に対する相談及び助言、指導④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供などを行います。

### 臨床心理士受験資格課程

臨床心理師とは、(公財)日本臨床心理士資格認定協会が実施する試験に合格し、認定を受けることで取得できる資格であり、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて、人間の“こころ”の問題にアプローチする“心の専門家”です。医療、福祉の分野だけでなく、教育分野におけるスクールカウンセラー、社会における企業内カウンセラーや災害時の心のケアの担い手として、幅広く活躍しており、社会的な認知度も非常に高い資格です。

※本研究科は、(公財)日本臨床心理士資格認定協会が認定する第1種指定校に認定されています。

豊富な臨床現場での実践を通じた研究を行っている教員を配置する本研究科では、大学院生にも同様に多様な臨床実践を経験できるようなカリキュラムを編成します。具体的には、学外施設での臨床実習や見学実習、学内の臨床心理相談室における心理面接の担当、ボランティアによる現場体験、電話相談の実施などです。これらの実際の体験から得られたことを整理し、カンファレンスでの発表やケースレポートを通じて自らの言葉で理論的に精緻化することは、新たな知見を生み出す貴重な機会となります。



# 博士後期課程

研究・臨床実践を発展させ、より高度で専門的な臨床心理学の研究を希望する者や、現場で活躍している臨床心理士や公認心理師で、より高度な実践能力の習得をめざす者からの要請に応えるため、研究者養成コースと高度専門職業人養成コースの2コース制を導入する。

## 履修モデル

◎:必修科目    ○:選択科目

科目区分	1年次		2年次		3年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
演習	◎臨床心理学演習Ⅰ		◎臨床心理学演習Ⅱ		◎臨床心理学演習Ⅲ	
特殊研究		○臨床心理学特殊研究Ⅰ		○臨床心理学特殊研究Ⅱ		○臨床心理学特殊研究Ⅲ
事例研究		○臨床心理事例研究Ⅰ		○臨床心理事例研究Ⅱ		○臨床心理事例研究Ⅲ

### 研究者養成コース

修士課程における対人支援の領域における実践的研究を基礎として、さらなる臨床心理学の幅広い学問的知識を修得し、現代的な心理学の課題の認識と課題解決に寄与する深い研究能力を育成します。「臨床心理学特殊研究」では、理論的な研究あるいは先行研究のレビューなど、博士論文の執筆に必要な専攻分野の研究を進めるとともに、学術論文の作成や研究方法等に関する情報を収集し、現代的な課題の解決策を模索する、より実践的な研究を行う上で必要な知識を修得します。



### 高度専門職業人養成コース

社会人として実践してきた臨床心理活動を題材として、複数の詳細な実践記録の省察から広範な実践を俯瞰でき、さらに臨床実践における有効なスーパーヴィジョンの方法を獲得することを目的とします。「臨床心理学事例研究」では、個別指導をとおして、これまでの実践を振り返り、スーパーバイザーとして適切な臨床指導を行うための知見を獲得するだけではなく、指導者育成において必要な手法の獲得を目的とした指導を行います。



### 両コース共通

指導教員のもとで行われる研究指導だけではなく、複数の博士後期課程担当教員合同で行う研究発表会やケースカンファレンスに出席し、関連学会における研究発表や論文投稿を促す指導を行う。これによって、臨床実践における技能修得と、その実践を客観視することで成立する実践研究それぞれを並行して行い、実践と研究のつながりを深く理解できる高度専門職業人の資質を備えた研究者・実践者として活躍できるように教育課程を編成する。

## TOPICS

### 新施設「黎明館」

隣接する付属平安高校・中学校の敷地内に共有施設「黎明館」が完成しました。大学施設として教室や研究室、臨床心理相談室「大人と子どものこころのクリニック」などを配置。クリニックでは、公認心理師・臨床心理士の受験をめざす学生の実習施設でもあります。また、中高施設として図書室や自習スペース、食堂を含むコミュニケーションスペースなどを配置。エントランス付近には、学生や生徒だけでなく地域住民や観光客など一般の方々も集うことのできるオープンテラスカフェを設置し、地域社会とのつながりの場を生み出します。



## 赤津 玲子 教授

専門分野：臨床言語学

〔主な担当授業科目〕  
システムズアプローチ・ケーススタディⅠ・Ⅱ  
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ  
心理実践実習Ⅰ・Ⅱ



## 内田 利広 教授

専門分野：教育臨床心理学

〔主な担当授業科目〕  
ヒューマンライフケア・ケーススタディⅠ・Ⅱ  
教育分野に関する理論と支援の展開  
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ  
心理実践実習Ⅰ・Ⅱ



## 黒丸 尊治 教授

専門分野：緩和医療、心身医学

〔主な担当授業科目〕  
心身医学特論(保険医療分野に関する理論と支援の展開)  
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ



## 児玉 龍治 教授

専門分野：学校臨床

〔主な担当授業科目〕  
臨床心理学文献研究  
発達心理学特論  
心の健康教育に関する理論と実践



## 小正 浩徳 教授

専門分野：臨床心理学

〔主な担当授業科目〕  
心理的アセスメントに関する理論と実践  
心理実践実習Ⅰ・Ⅱ



## 高林 学 教授

専門分野：児童心理臨床

〔主な担当授業科目〕  
システムズアプローチ・ケーススタディⅠ・Ⅱ  
福祉分野に関する理論と支援の展開  
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ  
心理実践実習Ⅰ・Ⅱ



## 武田 俊信 教授

専門分野：児童精神医学

〔主な担当授業科目〕  
ヒューマンライフケア・ケーススタディⅠ・Ⅱ  
精神薬理学特論(保険医療分野に関する理論と支援の展開)  
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ  
心理実践実習Ⅰ・Ⅱ



## 東 豊 教授

専門分野：医療臨床

〔主な担当授業科目〕  
システムズアプローチ・ケーススタディⅠ・Ⅱ  
臨床心理学特論  
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ  
心理実践実習Ⅰ・Ⅱ



## 藤原 直仁 教授

専門分野：生理心理学、認知心理学

〔主な担当授業科目〕  
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ



## 三林 真弓 教授

専門分野：母子臨床

〔主な担当授業科目〕  
ヒューマンライフケア・ケーススタディⅠ・Ⅱ  
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ  
心理実践実習Ⅰ・Ⅱ



## 水口 政人 教授

専門分野：ビジネス心理学

〔主な担当授業科目〕  
産業・労働分野に関する理論と支援の展開



## 吉川 悟 教授

専門分野：臨床教育学

〔主な担当授業科目〕  
システムズアプローチ・ケーススタディⅠ・Ⅱ  
臨床心理面接特論  
臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ  
心理実践実習Ⅰ・Ⅱ



## 伊東 秀章 准教授

専門分野：臨床心理学的地域援助

〔主な担当授業科目〕  
臨床心理学研究法特論  
ブリーフセラピー特論  
心理療法特論



(単位:円)

## 修士課程(通常学費)

学費	入学金	他大学出身者		本学学部出身者		本学研究科の課程出身者	
		入学時納入金	1年次(後期)	入学時納入金	1年次(後期)	入学時納入金	1年次(後期)
		200,000	—	150,000	—	—	—
	授業料	356,500	356,500	331,500	331,500	331,500	331,500
	諸会費	20,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500
	合計	577,000	362,000	487,000	337,000	337,000	337,000

- 1: 諸会費は、学会、院生会、親和会、校友会からの委託徴収金です。
- 2: 本学出身者のうち心理学部・文学部・文学研究科・実践真宗学研究科出身者以外の入学生は、学会入会金2,000円を必要とします。
- 3: 校友会費(30,000円)は他大学出身者のみ修士課程2年次に納入していただきます。
- 4: 社会人入試入学者は、入学手続期間中に以下単位制学費選択者と同額の学費・諸会費を納入し、6月12日までに、学費の差額を納入することになります。

■「長期履修制度」が適用され、入学時納入金が第1学期の学費より多くなる場合は、その差額を次学期以降の学費に充当します。

(単位:円)

## 博士後期課程

学費	入学金	他大学出身者		本学学部出身者		本学研究科の課程出身者	
		入学時納入金	1年次(後期)	入学時納入金	1年次(後期)	入学時納入金	1年次(後期)
		200,000	—	150,000	—	—	—
	授業料	306,500	306,500	281,500	281,500	281,500	281,500
	諸会費	20,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500
	合計	527,000	312,000	437,000	287,000	287,000	287,000

- 1: 諸会費は、学会、院生会、親和会、校友会からの委託徴収金です。
- 2: 本学出身者のうち心理学部・心理学研究科・文学部・文学研究科・実践真宗学研究科出身者以外の入学生は、学会入会金2,000円を必要とします。
- 3: 校友会費(30,000円)は他大学出身者のみ博士後期課程3年次に納入していただきます。

■「長期履修制度」が適用され、入学時納入金が第1学期の学費より多くなる場合は、その差額を次学期以降の学費に充当します。

## 奨学金制度

学業成績や人物が特に優れた大学院生が、経済的な支援により安心して教育・研究活動に専念出来るよう、さまざまな奨学金制度を設けています。

### ■ 大学院学内進学奨励給付奨学金(予約採用型)(給付奨学金)

学内進学者の内、学業成績が優秀で、人物としても秀でていと認められる者に給付します。  
対象: 修士課程・博士後期課程在籍時  
金額: 150,000円(年額)

### ■ 大学院研究活動支援給付奨学金(自己応募)(給付奨学金)

研究活動を積極的に行う者を奨励するために給付します。  
対象: 修士課程(1年次)・博士後期課程(1年次)在籍時  
金額: 192,000円(年額)  
※2025年度実績額。

### ■ 大学院成績優秀者給付奨学金(自己応募)(給付奨学金)

学業成績が優秀で、人物としても秀でていと認められる者に給付します。  
対象: 修士課程(2年次)・博士後期課程(2・3年次)在籍時  
金額: 150,000円(年額)  
※2025年度文学研究科実績額。

### ■ その他の奨学金制度

上記の奨学金制度の他、さまざまな奨学金制度を設けています。

- ① 親和会海外研修奨学金(自己応募)
  - ・自己研鑽コース 100,000円の範囲内
  - ・研究コース 300,000円の範囲内
- ② 家計急変奨学金(自己応募)
  - 300,000円の範囲内
- ③ 災害給付奨学金(自己応募)
  - 被災内容に応じ、年間授業料相当額もしくは、半期授業料相当額

## 大学院生支援制度

心理学研究科独自の「大学院研究活動奨励・支援制度」を設けています。

### 1. 大学院学会発表援助費

大学院生の学修・研究活動の支援を目的として、学会・研究会での発表に対して援助する。  
発表1件につき: 10,000円(1人につき年間上限3件)

### 2. 実習援助費

修士課程を対象に実習にかかる各種諸費用の支援を目的として援助する。  
1人につき年間上限: 50,000円

学修・研究活動をさらに充実させることを目的に、「大学院研究活動奨励・支援制度」を設けています。

### 1. 学会活動支援

大学院生の学会活動の促進を目的として、学会への入会費または年会費、学会に参加・研究成果の発表を行う際の費用を支援する。  
① 入会金または年会費: 上限5,000円(年間1学会まで)  
② 学会参加費(発表を伴わない): 一律10,000円(②③合わせて年間2回まで)  
③ 学会参加費(発表を伴う: 国内): 一律30,000円(②③合わせて年間2回まで)  
④ 学会参加費(発表を伴う: 海外): 一律100,000円(年間1回まで)  
※②③④は研究者間の交流を促すため、対面での参加を対象とする。

### 4. 論文校正支援

研究成果の発信を促進することを目的として、外国語による論文を国際学会やジャーナル等へ投稿する際の論文校正にかかる業者への委託費用、または国際学会等において、外国語による論文口頭発表や論文ポスター発表をする際に必要となる校正にかかる業者への委託費用を支援する。  
【論文校正にかかる業務委託費支援】上限50,000円(年間1回まで)

### 2. 調査等活動支援

大学院生の調査活動の促進を目的として、大学院生が行う研究に関わる現地調査・フィールド調査・学外機関等への訪問に関する宿泊費・交通費を支援する。  
【宿泊・交通費支援】上限30,000円(年間1回まで)

### 5. 自主研究会運営支援

大学院生の自主的な研究会活動を促進することを目的として、研究会の企画に関わる費用および学外講師の招聘に関する費用を支援する。  
【自主研究会運営費支援】上限100,000円(年間10研究会まで)

### 3. 論文投稿支援

研究成果の発信を促進することを目的として、学会や国内・海外ジャーナル等へ論文を投稿する際に必要となる論文投稿料を支援する。  
【論文投稿料支援】上限50,000円(年間1回まで)

### 6. 博士論文出版支援

博士後期課程学生の博士論文の公刊を促進することを目的として、本学博士後期課程において博士学位(課程博士)を取得した者が当該博士論文を出版する際、その経費の一部を支援する。  
【出版費支援】上限1,000,000円(年2件まで)

## 龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、  
将来の予測が難しい時代となっています。  
いま必要なことは、「学び」を深めること。  
「つながり」に目覚めること。  
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。  
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。  
それが、私たちが大切にしている  
「自省利他」であり、「まごころ」です。  
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、  
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、  
より良い社会を構築するために。  
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、  
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。  
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、  
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、  
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。  
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。  
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

## 龍谷大学大学院 心理学研究科

新たな知と価値を創造するために、  
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に對峙し、  
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のありようや私たちの行動を省み、  
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、  
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。  
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

京都大宮キャンパス 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1  
Tel 075-343-3317 sinri@ad.ryukoku.ac.jp

※2027年4月、「大宮キャンパス」より名称変更。



心理学研究科のHPはコチラから

<https://www.psy.ryukoku.ac.jp/graduate/>

### ■ 入試について

「2027年度 入学試験要項」をご確認ください。  
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。  
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/>

### ■ 学費・諸会費について

2027年度学費・諸会費については、「2027年度 入学試験要項」をご参照ください。